第４回釧路市まちづくり基本構想策定市民委員会
議事要旨

１　日　時　平成２９年６月５日（月）
　　午後３時００分～午後４時５０分
２　場　所　釧路市役所　防災庁舎５階　会議室Ａ
３　出席者
（１）　委　員：五十嵐委員、伊藤委員、井上委員、大嶋委員、大野委員、
　　金子委員、川前委員、小磯委員、柴崎委員、夏堀委員、
　　西村委員、畑委員、原田委員、檜森委員、松尾委員
　　（五十音順）

（２）　釧路市：蝦名市長、名塚副市長、岡本総合政策部長、
　　平山総合政策部次長、太田基本構想主幹、大物専門員、
　　平間主査、沼尻主任
４　内　容
（１）　開会
（２）　委員委嘱
（３）　会議成立確認
（４）　市長挨拶
（５）　委員長挨拶
（６）　議事
　①釧路市まちづくり基本構想　たたき台について
　　ア　まちづくり基本方針について
　　・資料１－１、資料１－２、資料１－３に基づき、事務局より説明。
　　・意見、質問等なく確認された。

　　イ　重点戦略について
　　・資料１－３、資料２に基づき、事務局より説明。
　　・意見交換
　　（○は委員の発言、◎は委員長の発言、■は市長の発言、●は事務局の発言、以下同じ）

　　◎　重点戦略について、市役所内に重点戦略作業部会を設置、議論を積み上げた結果、本日提案がなされた。

各委員から個別の分野に限らず、全体の考え方、どのような視点でも構わないので、意見、質問を頂きたい。

○　私は、すべての根源は人づくりにあると考えているので、重点戦略の人材育成が重要だと感じる。様々なものが低迷、減少している時代に、人として生きる力、活力などをレベルアップ、パワーアップする戦略が具体的に何かできないか。アクティブシニアなど、とても素敵な言葉であり、就労が終わった元気な高齢者が地域の中で活躍しているが、それに頼ることなく若い世代も就労しながら地域で活躍してもらえる方向になっていくと良い。

そのためにどんな戦略が考えられるのか、今具体に発言はできないが、人づくり、学力向上もだが、子どもの学力のためにも家庭の力、家庭環境、賢い家庭などを作りあげていく具体的な施策があると良い。

○　重点戦略について「経済活性化」「人材育成」「都市機能向上」の３点という説明であった。良くも悪くも、きれいにまとまっているイメージがある。これまでの取り組みを考えた上で、地場産品などが盛り込まれ、これからの人材不足を見据えて、人材育成が盛り込まれていると思っている。

産業面で、これからを考えると生産性の向上が課題にあげられている。人材不足をどう補っていくかについては、様々な意見がある。例えば、日本という国で考えた時に、果たして外国人労働者の受け入れが正しい選択肢なのか、今まさに議論がされていると思う。一方、日本がここまで発展してきた基盤として、ものづくりがある。その点では、これからは、人が実際の労働力として働く部分が無くなるわけではないが、機械化が進められ、人が担う部分、役割が変わっていく。例えば、人に代わってロボット技術や、ＩＴが違ったかたちで機能を発揮されるだろうと考えられている。そういったことを考慮すると、釧路市としても、どのような人材を教育し、生み出していくのかが重要となる。若い世代を対象に、創造力や発想力など、人しかできない部分を伸ばしていく人材育成を色濃く表すところがあっても良いと感じた。

○　まず一点目、たたき台２７ページの重点戦略だが、以前から市長が説明している「医」「食」「住」などの部分で、安全で安心な地域社会を目指していくことは、まさにその通りだ。雇用の部分が、個々の企業の問題もあり、一番難しいのではないか。

そのような中で、資料２の「経済活性化」「人材育成」の中で、しっかりと地域の産業を生かしていくという方向性が見えている点は良い。

特に、「売れるモノづくり」という言葉が非常に良いと感じた。これからインバウンドを含めた観光などで売れないモノを作っても駄目で、売れるもの、欲しがるものを生産者側ではなく、消費者側のニーズに合わせていかなければならない。

○　今日の資料では、最終的にどの程度のボリューム感で出来上がるのかがわからない。これらの項目が細分化されて出てくるのか見えてこない中で質問をするのは難しいと感じる。

私も、重点戦略の中で、人材育成が重要だと考えている。未来を見ながら重点戦略を作っていると思うが、自分たちが生きている変化の激しい社会の中で、１０年後が見えてこない部分が非常に大きいと思う。土木関係でも、機械を据えつけたら自動で測量するものも出てきており、今後、人はどの程度必要なのか心配になる。

そうした技術が進む中で、人間という本質的なものに焦点を当てたものは普遍的だと思うので、人材育成に、もう少し力を入れてもいいと思う。

人材育成か都市基盤に関するのか分からないが、たたき台２７ページの安心な地域社会の中で、防災にどのように取り組んでいくのか疑問である。人材育成の中では、防災教育がとても重要なことであり、小さい時から自分の身は自分で守ることや、地域社会において自分の果たす役割を教えることが必要ではないか。

○　前回の委員会から日数が経っているが、戦略を抜きに構想を考えていくのは難しいという議論があったと記憶している。今回重点戦略を見て、前回まで議論された、釧路の良いところを見出していく、価値を付けていく、市長から話があった価値観の向上などが結びついた気がしている。

釧路の良いところを、私たちや子どもたちが改めて気づくような構想になったら良い。そのことを私たちが大事にしていくことで、外からの人の動きだったり、お金が生まれてきたり、経済が動いていくのではないかと感じた。

○　人材育成の部分で感じたことを述べさせていただく。人口が減少する中で、釧路から地域外の大学へ進学し、戻ってこない現状がある。学力

も関係するとは思うが、ライフステージに応じた人材育成という点でキャリア教育など、小さい時から生きるために仕事をすることや、仕事がどのようなものなのかの教育が必要だと感じている。

今金融業界では金融教育を小学校から実施している。しかし、他にも、漁業後継者の問題などもある。これは婚活にも関係があり、「漁業、酪農は無理だ」と思われがちだが、漁業がどのような仕事をしているのか、酪農も想像しているよりも機械化されていることに気づくこともある。

釧路にどんな企業があるか、その中でどういう人たちが働いているのか、進学などで一度転出した学生も学んだ技術などを生かせる企業があることをキャリア教育の中で伝えていけると良い。小学校、中学校、高校と段階に応じて釧路のキャリア教育を実施し、それが基になって釧路に戻って働くことになれば、釧路で結婚することにもつながると思う。働く場所を選べる教育が必要だ。

○　観光客やインバウンドなど書いてあるが、実際に何をするのかが気になる。今クルーズ船などが来ているが、おもてなしをする側として、観光客が行く場所や行ったお店で英語が話せないことが普通にあると思う。

では、英語の勉強をすればいいと思うかも知れないが、実際は、自分の仕事に一生懸命であり、勉強する時間や機会がないために、観光客が来た時にどう対応すればいいか分からないこともあると思う。英語教育を簡単に学ぶことができれば、さらに交流もできるし、売上も上がる気がする。

○　他の委員からも発言があったが、人材育成の部分が気になった。幼少期からまちをあげて、金融や創業のことなど、社会の仕組みを学ぶ機会を設けて、雇う側の人間を育てることが産業の発展につながると思う。

これから、２０４５年には、人工知能が人間の能力を越えることで起きるシンギャラリティ（技術的特異点）が来るといわれている。その時には、今の仕事が新しい仕事に全て代わっている可能性や、ロボットや人工知能がこの世界での影響力を強めている可能性がある。

様々な時代の新しい波が来て、１０年後の状況が分からないことが若い世代には特に不安につながっている。新しい仕事や生き方を自分たちで創造することや、進化させていく創造性と思考力を養っていくべきである。多様に変化する社会の中で、豊かに存続するまちになるために、同じ世代で集まり、過去の慣習による働き方をこなすのではなく、修正

して進化していく人材を、インフラも資源も豊富な「地方の中核都市・釧路」全体で育てていきたいと思う。

○　経済活性化や人材育成に関する課題は、経済性の観点から乗り越えていくことが企業活動だと思う。その中には、手早く外国人の労働者を活用することや、域外の機械装置を導入する考え方もあると思うが、その一部でも域内から調達することにつながる方針が盛り込んでいけたらと感じる。

　地道にものづくりを高めるために技術を磨くことも大事だが、そこに仕事がないと技術も伝承しない。その点からも、釧路市で取り組んでいる域内循環については、根本的に重要だと感じる。特に、経済活性化では、１次産業から３次産業までの全ての業種の連関が高まっている姿が、１０年後に実現していることが重要だ。

○　資料と説明を聞いて感じたことが、人材育成の中で、「女性」という言葉が何回か記載されているが、「女性」のとらえ方が大きく、視点がぼけてしまったと感じた。これまで議論されてきた、まちづくり基本方針の未来を担う子どもたちを育てる部分では、子育てに関わる大人など対象が示されていたが、重点戦略では、「女性」という言葉でまとまってしまった印象を受けた。

　先ほど、子どもたちへのキャリア教育の話が出ていたが、その子ども達を育てるのは母親であり、未来を担う子どもを育てる母親を支える具体的な言葉があっても良いのでないか。

○　まちづくり、ひとづくりを業務としている立場として、人材育成に注目した。福祉のまちづくりに関しても、活動に参加してくれる市民層が伸びない、担い手の問題を耳にする。将来のまちのすがたに、もう少し市民がまちづくりに参加している姿が盛り込めないか。

　また、様々なライフステージでの人材育成が記載される中で、具体的な施策として、地場産品を活用した食育などが挙げられているが、地域福祉計画や社会福祉協議会では福祉のひとづくりに継続して取り組んでいる。今後１０年間を考える中で、福祉教育についても、文言として載っていると良いと思う。福祉のやさしい心を育てる重要性もあるが、自分も地域の人たちと生活していることを認識するためにも福祉教育も大事ではないか。

○　これまでの委員会を通して、子どもたちを育てることが経済につながっていくという大きな流れで、子どもたちの教育が大事だと発言してきた。重点戦略の子どもを育てていく中で、地域が好きになる情報を身に付けて欲しいと思う。先ほど発言があった就職に関しては、地域企業の情報が学生に伝わっていないこともあるが、大学を卒業した時に、学生が釧路に帰ってきたいと思わない。結局、東京や札幌など暮らしやすい大都市に魅力を感じて就職してしまう。便利さは大都市に劣るかもしれないが、釧路が生活の質という点で、いかに魅力のある地域であるかを、小学校、中学校、高校を釧路で過ごす間に子どもたちに刷り込んでいくことが大事である。そして、その点を重点戦略で文字にしても良いのではないか。今は、子育てと就業が分かれて記載されているが、実は一体であり、その視点を明確にした方が良い。

港湾関係の視点で重点戦略を見ると、（３）都市機能向上の「将来のまちのすがた」では「陸海空の交通ネットワークの整備が進み」とあり、施策でも「陸海空の交通ネットワークの充実を図り」とある。将来のまちのすがたと施策に全く膨らみがない。分野別施策になった時に、詳細の記載は出て来ると思うが、将来像と施策を分けるのであれば、具体のアクションが記載されても良いのでないか。

たたき台の中で、数字が行を跨いで記載されていると、読みにくく、誤解を生じやすいので、改善していただきたい。

○　沢山の活字からキーワードを考えたときに、一つ目は、交流人口のあるまち、二つ目が、道東の拠点として他地域との差別化を意識しているまち、三つ目が、限られた資源をいかに活用していくかが釧路市の課題だと感じた。

いかに創造力を生み出せるような学力の保証を子どもたちにしていけるのか、経済的な困窮にある家庭状況の子どもも多い地域なので、子どもの未来に責任がある自治体として、この重点戦略、分野別施策で応えていくことが大事だと感じた。

また、様々な学習環境をどう保証するのかという点では、市内には色々な学校があるが、地域の方が放課後の学習支援に、遊びを含めて取り組んでいるケースや、児童館の運営に地域の方々が可能な範囲で携わっている地域もある。そのような地域の方を学校教育に巻き込んでいくためのコーディネートを市役所ができると良い。

子どもたちの未来につながる確かな学力の向上という点では、子どもたちは小学校、中学校、高校まで色々な発達段階を経る。その中で学ん

だことが、地域の人と交流することで実感できる取り組みが学校教育と社会教育にあると、関連する大人のライフステージに応じた色々な研修を喚起していくことにつながる。住民のまちづくりへの参加意識も他地域に比べて低いと思わないので、そのような潜在的なまちづくりへの想いを、生かしていくことが重要だと思う。これから簡単に豊かになると考えている人はいないと思う。そのような状況でも、子どもには無条件に愛情をかけられると思うので、子どもたちが地域の人と交流できる仕掛けを考えて頂きたい。

様々な場面で、文字化されているが、安全安心な社会をどう実現するのか。医療という点では、道東の拠点として総合病院が三つあるが、総合病院ではあるものの、診療科がない部分もある。医師が一年でも二年でも来てくれるような安心できるまちづくりも大事だと思う。

この委員を昨年度担ってから、大学生に釧路の印象を聞いている。そうすると釧路の人はやさしいと言う。知らない人でも「大学生かい」と声をかけてくれるなど、様々な場面で親切にしてもらっていると言っていた。一方で、「寒くて何もないまち」とも表現される。住んでいると感じないが、若い人の外からの視線として、親切な人が住んでいるという釧路の強みを活かしたい。限りある資源をどう活用していくのかという点では、ないものねだりにならないように、どれを重点的に取り組むのかを打ち出すと良いと思う。

また、資料１－２の、重点戦略の該当箇所で人材育成は、どの分野でも人材育成ができるのではないかという視点で考えていただきたい。

○　安心な地域社会の前に、安全が大事だと思う。安全安心が確保されるまちづくりを目指したい。

地域は、幼児から高齢者、障がいのある方々もともに暮らしている社会だ。すべての人たちが、どのよう場面であっても尊敬され、人間として等しく生活していけることが大事だ。互いに助け合う共助の言葉をどこかに入れてほしいと思う。

経済活性化がまちづくりで一番大事だと言われる中で、働く個々人の能力、技術が評価されていきがいを感じられるまちづくりが大事だ。

○　多くの方が人材育成の観点で話をしていたが、そもそも釧路にとって、どのような人材が求められているのかが、資料からは分からないのではないかと感じる。その点について、あらためて目指すべきまちづくりから重点戦略までを読んでみたが、「支援します」とは書いてあるが、

市の考え方は読み取れない。

もう一点、まちは産業だと考えているので、産業が成果を上げていければ、雇用や福祉の面も好循環が生まれてくると思う。実際に産業の状況を述べると、仕事があっても、人がいないから仕事が受けられず、自分の仕事を受け継ぐこともできない。一方で、働く側の視点としては、記載にある通りミスマッチがある。今の若い人は、単純作業ではなく、いかに自分自身が活躍し自己実現できるかを大切にする世代である。その点では、明らかに団塊の世代や団塊ジュニアとは違う点だと感じている。しかし、現在の釧路の産業は、自己実現ができる仕事が少ない。自己実現をしたい人が、ずっと魚を捌く仕事ができるかというと私はノーだと思う。もし、考え方を変えるとしたら、未だにそのような作業をやっている業種は、加工方法などアイディアを必要としている業種でもあるので、産業側の旧態依然とした体制から脱却したいという需要と、働く側である自己実現したい若者がしっかりとマッチングした上で、仕事にやりがいを感じてもらえる企業環境を作っていかないとミスマッチは解消せず、企業活動も高まらない。

重点戦略の経済活性化を見てみると、これまでの取り組みの延長線上にあると感じる。当然、行政のまちづくりの構想であり、地場産品や地産地消も理解する。しかし、各地の状況としては、「何々牛」「何々産野菜」など、どの地域もストーリー付きで打ち出している。結果として、消費者側はストーリーがあふれているので、ストーリーを除いて考えてみると、「味はあまり変わらない」と感じてしまっているが、供給側は「うちの地場産品はこれだから」と説明を一生懸命している。厳しい言い方をすると、売り方やストーリー性が先行してしまい、根本的な商品としての付加価値や商品力などがなおざりになっているのが、地場産品推奨の功罪のひとつだと感じている。

理想だが、地場産品に競争力があって、加工や何らかのサービスで付加価値が高まって、地元の企業を潤し、まちに活力を与えていくという視点が盛り込まれると良い。

◎　質問の回答や説明したい点があれば、事務局から回答をお願いしたい。

●　重点戦略の安心な地域社会は、行政としてやるべきものをしっかり取り組むことを示しており、その上で、釧路市が今後１０年伸びていくために、経済活性化を柱とした人材育成、都市機能向上に取り組む方向性

を構築していることにご理解をいただきたい。

委員から質問を頂いたどのような人材を必要としているのかという点については、行政としては、色んな分野の人材を作っていかねばならないと思っている。その点については、５つの基本方針の中で記載している。その上で、重点戦略では経済活性化に資する人材というような視点を大きく取り上げた。

また、全体のボリュームについては、ある程度コンパクトにしなければ、読んでもらえないのではないかという議論をしている。後ほど説明する分野別施策はボリュームのイメージも出て来るので、そちらであらためて説明させていただきたい。

意見があった福祉分野の視点については、重点戦略では、市として総花的な構成ではなく、今後１０年間で、この分野を重点的に取り組むという視点をもって記載をしている。安心な地域社会については、今後、分野別施策で記載をしていきたいと考えている。また、先ほど委員から、資料１－２で重点戦略の該当分野について意見があったが、この部分はあくまでもイメージであり、今後予算編成も含めていく中で整理されていくと考えている。

◎　通常の政策であれば各個別分野ごと分野別施策が示されるが、今回の重点戦略は、その前段に何を重点的に展開するかを示すことで、釧路市の長期的なまちづくりを示すメッセージ性を持った部分だと理解している。

前回、まちづくり基本構想の重点戦略については、市長が、市の行政のトップとして、このような方向で行くという考えや思いを示すことで、議論が進むという議論がなされた。そうした委員会での議論を受け止め、庁内で市長を含め、重点戦略の作業部会の議論を積み上げて今日に至っている。

それでは、委員の重点戦略についての意見、発言を受けた感想を市長よりいただきたい。

■　重点戦略のイメージ図の一個一個の言葉の整理していかなければいかないと思っている。

先ほど教育に関して、どのような人材を育成するのか、どのような目標を持っているのか、また、福祉教育についても意見を頂いた。基本は、その人その人が確かな学力を高めることによって、様々な選択肢を持てるようにするのが教育だと考えている。「地元にいたい」、「世界で活躍し

たい」などの希望が、釧路市に住んでいたから実現できなかったとならない、子どもたちの目標を達成できる環境を作っていくことが必要だ。その上で、この地域にどのような仕事があるのかを教えていきながら、地元にいたいと思えば、地元の中でどんな仕事が求められているのかを示していくのが教育だと思う。

また、英語を学ぶなど、大人の様々な可能性を広げていくための機会が気軽にあれば良いという意見も出ていたが、さまざまな可能性を高めていくことも教育だろうと考えている。

もう一点、福祉の視点に関する意見を頂いた。地方自治法に福祉の向上と書かれているが、福祉の定義は書かれていない。公の福祉とは何かについては、機会があるごとに議論しているが、私は日本福祉大学の二木前学長が書かれたものが一番理解しやすかった。

その福祉とは、「いのち」「くらし」そして「いきがい」この３つから成り立っている。この「いのち」の中には医療などが入り、「くらし」には様々あるが、経済などが入り、「いきがい」には生涯学習などが入ってくる。このようなものが本来の福祉だと考えている。

そのような安心な地域社会について、安全という視点の必要性を意見として頂いた。順番としては安全だから安心な地域社会が生まれると考えている。

教育、文化、福祉、医療などの安全だから安心できる地域社会のベースの上で、これから地方の進むべき方向では、やはり産業が一番だろうと思っている。どれだけ良いことを言っても、最終的にはしっかり仕事をして所得を上げていくことで、明るい家庭や地域社会が成り立っていく。この地域の中で、しっかり市民が健康で働ける、もちろん働けない方は社会的に支える。その中で、このまちで働ける環境、働きたいと思う人が色々な希望を実現できる環境も、経済活性化に入っている。

地場産品については委員の話を聞いて、これまでのやり方では売れないのだと感じた。ベースにある域内循環については、平成２１年４月にスタートした釧路市中小企業基本条例を策定する際に、まちのお金が、外に流出しているデータがあったことから生まれた。その時の数字では、域内で循環するお金が５８％であり、残りの４２％が域外で使われていた。その４２％のうち２０％、１０％でも、地元で使われればお金が回る。そのような背景の中で、もう一つ重要なことが、私たちがもっている大切な資源を安売りするのではなく、しっかり付加価値をつけながら適正な価格で販売し、外から稼いでいくということである。この２つが地場産品の取り組みには入っている。

最後は、何をするにしても、人が全てということが議論として大きいと感じた。これからも学校教育の中で、地元産業の情報をしっかり伝えていくような取り組みを進めたい。

残念なことに高校を出て働きに行った人たちは、３年以内に離職するケースが多い。成人式の時に地元の会社等の様々なＰＲをすることも考えられる。大学生の時に地方にいたら一回は外へ行ってみたい気持ちもあると思うが、戻ってきたい人向けのＰＲの仕方もある。今はインターネットを見ると、エントリーシートなどパソコン等々で就職の情報を得る方法もあるので、色々な対応を進めていけたらと考えている。これは個別の話だが、皆様方の意見もふまえながら議論していきたい。

◎　重点戦略は、市の政策としてメリハリがでる部分なので市長の意見や各委員の意見もふまえながら、詰めの作業を進めていただきたい。私自身も、感想を述べると、重点戦略には３本の柱があるが、各委員の意見を聞いていると、圧倒的に人材育成の関心が高いと感じた。人材の育成、育成という言葉は行政の立場でメッセージを出すと、市がどこまでできるのかという点から、政策の実効性に疑念を持たれがちだが、各委員の発言を聞いて、それを超える幅の広い問題意識で人材育成を見つめているという印象だった。今日議論を行った経済活性化を核にした人材育成、都市機能向上という枠組みが、基本構想の軸となり得るという印象を受けた。

これからのまちづくりを考えていくと、この釧路に、より創造性を持ち、より地域に愛着を持ち、その魅力を発信できる若者だけではない幅広い人々が集うことが非常に大事だと感じた。

そこに経済や、それを支える都市の機能などのつながりをメッセージとして出していくことが、まちづくり基本構想の視点としてあるというのが意見を聞いた感想である。

域内循環については、経済から出た発想だが、私が域内循環を提起した大きな意味は、生産する側と消費する側が直接しっかり対話をして、緊張感を持つことでお互いを磨いていく、賢い使い方、したたかな生産活動、そこに生まれてくるのは人材育成である。経済の側面から出された取り組みと人材の問題が密接につながっていく。そのようなところが新しい基本構想の中で読み取れれば素晴らしい質の高い政策になるのではないかと感じる。

１０年後の姿がよくわからないと委員から発言があったが、まさにその通りであり、私も６９歳になるが、１０年前を振り返ると、まだまだ

働けという社会になっているとは夢にも思わなかった。これからの日本は物理的な年齢だけではなくて、高齢者になっても元気で社会的参加の意欲があって働ける方がいれば、社会の中で活躍できる仕組みを作りあげることが、結果若い世代にも大きなプラスになる。

高齢者のためではなく、社会のために仕組みを作り上げていく大事な時代になってきている。日本の場合、高齢化のスピードが世界と比べても圧倒的に速い。高齢者が少なく、人口が伸びている時代の仕組みが社会を支えている。その問題点をしっかり突き破っていく政策が大事なところだ。

これからの１０年後に地方自治体として釧路市のもつ役割を考えると、例えば、先ほど委員から現実に即した問題提起がなされた雇用については、戦後中央省庁の旧労働省、今の厚生労働省によって国の政策として進められてきた。しかし、どのような人を雇いたいのか、そのために何をすればいいのか、このような仕事がしたいなどの情報を知っているのは地域に密着した自治体であり、今、雇用のミスマッチを解消するための取り組みが求められている。

１０年後の釧路のまちづくりは、そのような取り組みを釧路市の政策としてどう展開するのかも視野に入れていくと良い。教育についても、これまで高等教育は中央が決めた枠組みの中で進められてきたが、今日の意見からは、地域の魅力を理解し、それを伝え、そのような思いを持った若者が、外へ出ていけば帰ってくる可能性がある。そのような地域の教育をどう展開していけばいいのかという点も感じたところである。

また、安心な地域社会に安全を入れるべきかという意見が気になった。防災の指摘もあったが、釧路という地域を見た場合、色々な災害の問題と向き合った地域という印象がある。強靭化という政策はばらまきのようなイメージの誤解があるが、本来はソフトな仕組みである。安全で安心な地域社会づくりと進めていく視点も必要だと議論を受けてあらためて感じた。

ウ　分野別施策について

・資料１－３、参考１に基づき、事務局より説明。

５　その他

・ご意見シートについて事務局より説明。

・次回日程について事務局より説明。

６　閉　会